

北社会ニュース#86号

2012年11月19日

発行者： 鈴木壮夫

昨年より23日遅い「木枯らし1号」が観測された昨日、大先輩青山史朗氏よりFAXをいただいた。「木枯らしの頃となれば訃報しきり。三島由紀夫が自衛隊体験入隊の際、指導教官として知り合い、以来心の友として親交を結んだ思い出を北社会講演で披露した菊地勝夫さん（高7回）が10月19日76才で永眠されたと奥様よりお葉書をいただきました。彼の話は感銘深く、名講演の一つとして憶えています」と。

私にも奥様よりお葉書が届きました。菊地さんが北社会にお越しいただいたこと思い出されます。たったの“4年先輩”です。寂しくなりますね。でも、何となく気落ちしていた私を励ます言葉がラジオから放送されました。早朝、5時前に起床して、そば屋に歩いて向かう。川越だからかもしれないが星空がその時刻ではまだきれいに見られる。でも、気持ちがしっかりしない。何のために生活しているのか、何を目指しているのか、心の支えは何なのか・・・悩んでいました。ラジオの言葉は『何かを始めるのに、遅すぎることは無い』という単純な言葉でした。でも、私ははっと気付きました。“前を見よう！”と。『何か』は今、考慮中です。青山大先輩は来月90才を迎えられると記憶しております。私は巳年で来年3月やっと72才。大先輩より素晴らしい元気をいただきました。

(1) 11月20日(火) 開催 第303回 北社会

講師：吉田 明氏 (高16回) 元・朝日新聞記者 退職後中国メディア等で活躍

テーマ：「国営メディアから見たものー中国国際放送局の4年間」

ご承知のように、先週、中国共産党の新しい政治局常務委員7名が選出されました。

党総書記は習近平氏(59才)です。13億人の民衆を束ねていく苦労は大変です。

中国共産党がその困難さを指導していけるのかどうか未知数かもしれませんが、おおいに関心をいだかせざるをえません。小さなことですが私の一つの経験を書きます。

商社の駐在員として北京に赴任したのは1986年2月でした。もう26年も昔のことです。海外駐在は初めてでした。中国語も初歩でした。北京駐在員事務所は日本人は15人、

中国人は30人。日本人の性格は大きく分けて中国をバカにしていた派、中国友好派、そしてどちらにも組まない人を信頼する派の三つがあったと記憶しております。

春節直後に赴任しました。それから、一ヵ月近く事務所でも、客先でも、街中でも初めて経験する『違和感』に悩まされました。それが何なのか判らなかつたのです。親しくなつた中国人がそれとなく教えてくれました。【中国は戦争で日本に勝つたのだぞ】と。

アメリカに負けた。中国に負けたなんて多くの日本人は思っていない。今でも日中双方の違和感のベースになっているのではないだろうか。私の拙い感想です。

吉田さんの北京での生活は素晴らしい活躍です。大いに楽しみにしております。

(2) 12月8日(土) 第304回 北社会 『同窓生交流会』

北社会としては初めての試みですが、“若い世代との交流”を実現したく忘年会を開催

します。17:00~19:00 会場は虎ノ門駅より徒歩1分、エキスパート倶楽部です。会費は3500円、多数の参加を心より切望しております。